

〔倭名類聚抄五〕美濃國略 管十八町田萬四千八百二十

〔海東諸國記〕美濃州 郡十八水田一萬四千八百二十四町五段

〔伊呂波字類抄見〕美濃國管十八中略本田一

〔拾芥抄中末〕美濃上十八郡中略田萬五

〔新撰類聚往來下〕國名略 中 美濃 濃州 十八郡中略田數四萬四

〔前關白秀吉公御檢地帳之目錄〕五十四方石 美濃

〔國花萬葉記美十〕美濃國 知行高五拾八方五千五百廿三石

〔新撰美濃志美一〕美濃全體說 田圃は和名類聚抄に美濃國田萬四千八百二十三町一段六十五步と見

え拾芥抄に田萬五千三百四町としるし新撰類聚往來に美濃田數四萬四千八百三十三町南北

三日山原田畠多紙帛豊也五穀万倍生ズ大上國也とかけり後世數度の檢知に田數増しあるひ

は原野を墾開して新田とする物夥しく和名抄等の田數に八十倍にも及べり類聚國史に天長

九年九月癸卯美濃國空閑地二十四町一段爲勅旨田三代實錄に仁和二年十月十四日己未令美

濃國班給百姓口分田政事要略の諸國國造田四百十一町五段のうちに美濃國二十四町齊力婦

女田二十七町三段のうちに美濃國二町賜田八町のうちに美濃國一町と見えたり

稅稻は略 中 中むかし永錢つもの頃は何萬貫文の地なりしたや定かにしるしたる書なけれ

ば今は知りがたし天正の中頃より諸國ともに石高となりて今の免賦といふ事はじまる是を

天正の石直しといふ當國は古高帳元和の頃の物といへど 典に六十萬九千七百四拾石餘とし

るし元祿十四辛巳年十一月の郷高帳には六十四萬五千二百五斗三升と見えたり

〔美濃名細記五〕美濃國三十一郡

三方四千三百十石餘 七十八ヶ村 惠那郡 四方九千二百八十六石餘 百七ヶ村 大野郡